

令和2年5月20日

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（第7回）
資料4-1の「1. 専門学科の在り方について」に対する意見提出

埼玉県立大宮工業高等学校長 清水 雅己

今回の会議については、学校再開に向けた準備のため、残念ながら出席できないので、会議資料に対する私の意見を書面にまとめ提出させていただきます。

○（3）～（7）について

- ・人は皆、何らかの産業にかかわる仕事に従事し、充実した幸せな生活を営み、国を支えていかなければなりません。そのためにも、産業教育は極めて重要な教育であり、さらなる発展・充実を図るべきと考えています。
- ・このことから、新学習指導要領において、社会に開かれた教育課程の実現が位置づけられていることは大変意義深く、これを専門高校で実現するために、従来の専門高校と企業との連携をさらに進めて、地域の産業界と専門高校のみならず、大学や研究機関等とも一体となってカリキュラムの開発・実践を行う仕組みを構築する、という考え方は、これからの日本や地域を支える最先端の職業人を育成するためには必要であると考えます。
- ・特に、国の強力な指導・支援の下、産業界と県、市町村等が一体となって、魅力ある専門高校の改革プランを作成し、育成すべき人材を明確化するとともに、産業界と専門高校が一体となって育成していくことは重要であると考えます。

○（10）（11）について

- ・時代の進化や変化にともない、学ぶべき技術や基礎・基本も変わっていかなければなりません。
- ・専門高校の施設・設備についても言及されていますが、工業高校をはじめとする専門高校の施設・設備は、「老朽化しているものが少なくない」というより、そのほとんどがあまりにも老朽化してしまっています。
- ・産業界のニーズに十分に答える教育を行うためには、資料で言及されているとおり、実験・実習に必要な施設・設備を時代の進化や変化に合わせ、適切に更新していくことは大変重要であると考えます。そのためには、施設・設備の整備に対する国の支援の更なる充実が必要です。
- ・加えて、施設・設備の整備については、公立高校については、設置者である都道府県が整備していますが、特に設備については、平成17年度に国庫補助が一般財源化さ

れたということですので、資料で言及されているとおり、都道府県において、実験・実習に必要な施設・設備の整備を国の強力な指導・支援の下、計画的に進めていくことが重要だと考えます。

- ・さらに、産業界で現在必要とされる技術や機器等の活用方法を専門高校の生徒が体験するには、資料で言及されているとおり、地元企業や大学・研究機関等の最先端の施設・設備の活用を生徒の学びに取り入れることが有効ですので、このような取組が各地域で広まる必要があると考えます。

○全体をとおして

- ・日本のさらなる発展と、それを支える人が充実した幸せな生活を営むためには、日本の産業をさらに発展させていかなければなりません。そのためにも産業教育の要である専門高校の教育活動をさらに発展・充実させるとともに、中学生やその保護者、教師等をはじめ広く国民に、産業教育および専門高校の重要性や魅力を周知していくことは極めて重要なことであると考えます。
- ・（８）（９）（１２）も含め、これからの専門高校の在り方が示されており、全体をとおして、この方向性に賛成するとともに、強く推し進めていただきたいと願っております。よろしく願いいたします。